

金沢大学 2017 前期試験 問題講評

金沢大学 英語講評

問題は、大問 3 つの構成で変更はなし。大問 I・II については、内容正誤問題、穴埋め問題以外は昨年同様、全て英文での記述解答が求められた。長文は昨年並みのレベルで身近な内容でもあり読みやすかっただろう。大問 III は、与えられたテーマのもとそれに関する観点を選び意見を二つ述べる自由英作文へと変更された。語数(一つの意見につき 40~60 語)と、盛り込む内容に指定があった。

英文読解力に加え、英語の運用力を重視する大学の方針は変わらず、英文をスムーズにミスなく書く力が大きく点数に影響するだろう。

金沢大学 国語講評

一. 現代文、二. 古文、三. 漢文は平年通り。現代文は字数制限問題がなくなり、古文はすべて字数制限の問題となった。全体を通してやや易化。

現代文は、日本の共同体における義理人情の在り方についての文章。内容は理解しやすいが、設問をよく読まないと答えづらい。

古文は、『平家物語』からの出題。和歌が出題されているが、話の筋をとらえやすい。

漢文は、朱熹(子)の文章からの出題。久しぶりに漢詩が出題されたが、内容も分かりやすく基本的な知識があれば解ける。

金沢大学 理系数学講評

昨年同様4問構成の内容であった。

大問1は複素数平面、大問2は2次曲線、大問3は三角関数と積分、大問4は数列の極限の出題であった。全体的に昨年よりやや難化し、計算量も増加した。

例年、数学 III の標準的な出題が多いので、数学 III の範囲は微分積分だけでなく、全分野まんべんなく演習しておく必要がある。

金沢大学 文系数学講評

例年通り3問構成の内容であった。

大問1は三角比の問題。(1)の辺 AB、AC は三角比の定義を用いて解く。(3)は辺 BC の垂直二等分線と内接円 O の図形的関係に気付けるかがポイントである。

大問2は整数問題。(1)は具体的に6個求めればよく、(2)はこれの一般化したもの。 p が素数であることと ${}_m C_k$ が整数であることを利用して示す。(3)は(1)を利用して示す。2009年の東京大に類題が出題されている。

大問3は微分・積分の問題。(4)で指数の処理がしっかりできたかがポイントである。

昨年に比べて完答できそうな問題が少なく、やや難化したと思われるので、日頃の勉強の成果が試されたであろう。

金沢大学 物理講評

昨年度より文章量がかなり増加し、題意が把握しづらい。解答にかけられる時間が短くなり、難化した。

I は光の波動性と粒子性に関する文章完成問題。

II は気体分子運動論とシリンダー内の気体の問題。

III は円筒面をもつ台と小球の運動の問題。問6以降は種々の法則を用いる良問。

IV は変圧器の問題。後半の起電力の向きに注意が必要。

V は干渉計の調整に関する問題。文章量が多く、内容把握に時間がかかる。

前半の問1～問3を正しく解答できたかどうかは鍵となる。

金沢大学 化学講評

出題形式には変化なし。3年ぶりに医薬保健・人間社会学域の大問IVで高分子化学からの出題があった。理工学域・大問Vでは、昨年話題となったニホニウムを扱った問題が出題された。内容は標準的だが、初見の物質に戸惑った受験生も多いだろう。また、大問VIの分配平衡の問題は、演習で扱ったことがないと難しい。

総評として、医薬保健・人間社会学域は、標準的な問題が多く、論述や計算問題をミスなく解答したい。理工学域は、大問VI以外の出来が合否を分けるだろう。

金沢大学 生物講評

昨年と比較すると、図表は昨年度と同様 11 個、計算問題は 6 問から 2 問に減少、作図問題は昨年度と同様 1 問だった。

大問 I では光合成とATPの産生、大問 II では眼の構造と視細胞、大問 III では配偶子形成と生殖、大問 IV では花芽形成と遺伝子発現、大問 V では種内関係と生命表について出題された。大問 V では血縁度に関するやや発展的な問題が出題された。

記述問題は昨年度とほぼ同数で、指定語句のあるものが多く出題された。全体的には標準的な問題であった。

育英予備校金沢・富山育英予備校